

## 大学生と共に創るドキ☆土器☆『弥生・古墳学習』 —出前授業の実践から—

—『今日の授業実践から明日の授業実践を創る』（黎明書房刊）の原稿です—

以下は、平成25年度に執筆した出前授業に関する教育実践論文です。

津島市立南小 浅井 厚視

### （1）『天王文化塾』と『天王子ども塾』

私は子どもの頃から、歴史が大好きであった。その理由を考えてみると祖母が毎日語ってくれた『おはなし日本史』にあった。祖母の歴史の話は皇国史観に基づいていたが、人物中心で楽しいエピソードに溢れた歴史であった。私が住む津島のまちの歴史（大学生となった時、それは天野信景が書いた『浪合記』<sup>なみあいき</sup>によることに気づいた）も本当にドラマチックな展開、大河ドラマを見ているようであった。祖母の歴史の話のおかげで、私は歴史が好きになった。私も津島の歴史につながっている存在であることを教えられた。祖母の話に比べれば、私の歴史の授業などは足元にも及ばないと思う。

「天王文化塾」は、愛知県津島市で活動している市民活動団体である。平成12年1月に地元の有志が集って発足し、以来歴史・文化を「学ぶ」分科会、郷土メニューを「食べる」分科会、町屋を保全し再生する「暮らす」分科会、全国の市民団体やNPOとネットワークを結ぶ「知らず」分科会の4つの部会で構成されている。「町は私的空間ではなく、市民みんなのもの」といった理念のもと、地域に貢献する各種事業を展開している。その中で特に「学ぶ」分科会は2ヵ月に1回講演会を開催し、会の例会・普及講演会としての機能を有している。ちなみに記念すべき第1回の例会（平成12年1月）では、私が『海部地区の弥生・古墳時代』と題して講義を行った。

「天王子ども塾」は、平成13年8月に始まった地域の子どもたちと一緒にあって、郷土の文化や歴史を学ぶための活動である。第1回の「まち中の古井戸」の整備に始まり、「まちの秘密さがし」「織田信長の生誕地を訪ねて」「山車のからくり人形」「まちかどスケッチTシャツ」「津島囃子」「地域の昆虫採集」「山車のジオラマ作り」などを実施してきた。どの年の会においても大学生の積極的な参加を促してきた。「天王子ども塾」では、「古くて面白いもの」を、子どもたちと「探し」「遊び」「学ぶ」ことで、子どもたちが身近な地域の歴史を発見し、参加の大人たちと郷土の課題に気づくことが出来るようなイベント活動である。これらの活動は、新世代育成を目指す「津島ロータリークラブ」との共催事業となっている。

平成22年度から、天王子ども塾で『ドキ☆土器☆弥生・古墳・城学習』として、教職を目指す大学院生・大学生の参加を募り、生涯学習の場で子どもたちが身近な歴史を学ぶ機会を設けることにした。（3年間継続予定）これは私の祖母が語ってくれた歴史を遺跡から出土した遺物を基にして、子どもたちに歴史を語りかける「場」にしていこうとねらっている。あわせて教職を目指す大学院生・大学生と授業づくりを行ってきた。子どもたちが興味関心をもつ歴史授業のあり方について共に考える場にしてきた。

## (2) 平成 23 年度『ドキ☆土器☆弥生学習』の実践

### ア 実践の概略

平成 23 年 8 月 28 日、津島市観光交流センターにおいて「第 11 回天王子ども塾 ドキ☆土器☆弥生学習」を実施した。津島市と愛西市の小学校 4～6 年生 28 名が参加した。また教職を目指す大学院生・大学生 7 名が、学習支援のボランティアとして参加した。開校式では、本事業の責任者として、津島ロータリークラブ会長から激励のあいさつを頂いた。その後で、午前中に弥生時代の津島についての学習をした。愛知県埋蔵文化財調査センターより、津島周辺で出土した弥生時代の土器を借用してきた。本物の遺物にふれた後、ペーパークラフトで弥生土器と銅鐸を作成した。昼からは、弥生人の顔に関する写真を何枚も見た。これらの写真は土器に描かれたものである。このスライドを基にしてイラストを描き、弥生時代のイメージをしっかりとつとむことができた。最後に子どもたちは、平成 22 年度から始まった『津島の達人 ジュニア歴史検定』の問題にチャレンジした。

教職を目指す大学院生・大学生のボランティア 6 名が、子どもたちたちの活動をサポートした。たまたま私が非常勤講師をつとめていた愛知教育大学から 1 人の院生と名城大学の 5 名の学生の参加があった。事前にメールで打合せをした。当日も 1 時間前に集合し、最終の打合せとサポートの方法についての確認を行った。あくまでも講師を手助けするアシスタントとして、ペーパークラフトの土器作成の手伝い、イラストを描く際の色や形の助言などをお願いした。昼食の時間も含めて、グループに分かれたので、子どもたちと接触する時間を多くもつことができた。閉校式では再び津島ロータリークラブの会長よりお褒めの言葉をいただいた。又参加した子どもたちと大学生が学習活動の感想を発表した。

### イ 『ドキ☆土器☆弥生学習』の学習内容

学習した内容（スライド）について、簡単に述べることにする。この弥生学習では、実物にふれ、その感動をもとにして歴史学習を進めることが特徴となっている。また、学習の間にクイズを設けて、楽しみながら学習することを狙った。はじめに考古学一般（埋蔵文化財）や教科書に載っている遺跡や遺物について学び、その後でこの地域（清須市・一宮市・津島市）の弥生時代の遺跡について学習を進めた。

#### 【資料 本日の学習予定】

開校式	9 : 35 ~ 9 : 45
弥生時代を学ぼう	9 : 45 ~ 10 : 30
弥生土器の製作	10 : 45 ~ 12 : 15
昼食・休憩	12 : 15 ~ 13 : 00
弥生人を描こう	13 : 00 ~ 14 : 30
津島の達人に挑戦	14 : 45 ~ 15 : 30
閉校式	15 : 30 ~ 15 : 50



【写真 当日の様子】

子どもたちが興味をもつようにと弥生人の顔にこだわって、人面土器や土偶のスライドを多く見せることにした。弥生人といっても教科書に載っているような白い服、平べったい顔ばかりではなく、顔全体に刺青を入れた鯨面の人たちが色彩豊かな着物を着ていたことを説明した。弥生時代の文化が地域によって大きく異なり、それぞれの地域で独自の文化を発展させたことを付け加えた。

人面土器などをもとにして、弥生人のイラストを描くことで、子どもたちにとって、弥生人がより身近な存在となり、イメージを豊かにすることができたと考えている。

清須市・一宮市・津島市にある遺跡を取り上げることで、身近に歴史があることに気づくことができた。

**ウ 『ドキ☆土器☆弥生学習』  
で製作したもの・描いたもの**

今回の学習を通して、子どもたちは「パレス・スタイルの壺と甕」（いずれも愛知県埋蔵文化財センター）と「銅鐸」（大阪府立弥生博物館）のペーパークラフトの製作を楽しんだ。1時間半～2時間かけ、難しいところは大学生のアシスタントに教えてもらいながら製作した。ペーパークラフトは土器を面でとらえることができ、出土した遺物の破片をもとに全体の形を考えるトレーニングになった。平面の展開図を立体の土器にすることができた。また人面土器などをもとに「弥生人のイラスト」を描くことで、人の姿を通して時代のイメージを確かにもつことができたと考えている。

**エ 子どもたちの感想**

『ドキ☆土器☆弥生学習』の事後アンケートから、「弥生時代のことが よくわかった 10

**【資料 当日のプレゼンの内容】**

- スライド① 竪穴住居ジオラマ写真（大阪府立弥生博物館）
- スライド② 考古学とは 人とかがわったものを扱う学問
  - ・遺構とは昔の人が掘った穴・溝・井戸・住居
  - ・遺物とは昔の人が作った道具・ゴミ
- クイズ1 弥生時代に納豆はあったか。○あった
- クイズ2 土器は食事をおいしくしたか。○おいしくなった
- スライド③ 朝日遺跡の逆茂木、環濠集落のイラスト
- スライド④ 環濠集落・望楼・高床式倉庫・柵
- スライド⑤ 復元された吉野ヶ里遺跡の写真
- スライド⑥ 弥生時代のお墓方形周溝墓と人骨（朝日遺跡）
  - クイズ3 弥生時代にお菓子はあった ○あった
  - クイズ4 弥生時代の職業第1号は巫女であった ○正しい
- スライド⑦ 弥生時代の時代の分け方 前期・中期・後期
- スライド⑧ 銅鐸（一宮市八王寺遺跡）の写真
- スライド⑨ 弥生時代の建物と井戸（池上曾根遺跡復元家屋）
- スライド⑩ 弥生時代の道具と弥生犬（大阪府立弥生博物館）
  - クイズ5 弥生時代のムラは海岸から遠い ×近い
  - クイズ6 弥生時代になって虫歯が増えた ○米食により
- スライド⑪ 津島の弥生時代（寺野遺跡の遺物写真）
- スライド⑫ 奥津社古墳と三角縁神獣鏡の写真
- スライド⑬ 人面土器（安城市歴史博物館）の写真
- スライド⑭ 弥生時代の土偶の写真
- スライド⑮ 弥生時代の土偶（一宮市八王寺遺跡）
- スライド⑯ 津島の達人 ジュニア歴史検定の問題と解答

人 わかった 13 人 あまりわからなかった 2 人 (25 人中)」「弥生時代の学習が 好きにな  
った 9 人 少し好きになった 14 人 変わらない 2 人 (25 人中)」と学習内容がよくわかり、  
学習活動が好きになったと好意的に回答した子どもが多かった。

子どもたちの感想としては「クイズなど簡単に楽しく覚えることができた。ペーパークラ  
フトは難しいものを選んだ。難しかったけれどまたやりたい。弥生人の絵をかくのはバリバ  
リ楽しかった」(6 年女)「クイズがとても楽しかった。ペーパークラフトや弥生人の顔をか  
き、弥生人のいろいろな事が想像でき、よい経験をさせてもらいました」(6 年女)

「ペーパークラフトはあまり得意でなかったけど、作って体験したことで、土器の名前を覚  
えることができました」(6 年男)「弥生時代の土器をさわることができて楽しかったです」  
(5 年男)「納豆があることを知らなかった。弥生人の絵を描いたのがおもしろかった。犬が  
いるんだと思った。今日はありがとうございました」(5 年女)「クイズなどで楽しく覚える  
ことができた。弥生人の絵を描くのが楽しかった」(4 年女)と書いていた。子どもたちは、  
感想の中でペーパークラフトの土器を作ったり、弥生人のイラストを描いたり、クイズを解  
いたりする学習活動が楽しかったと書いていた。子どもたちにとって意欲を高め、興味をも  
って追究できる歴史の学習であったことがわかる。

#### オ 参加した大学院生・大学生の感想

教職を目指す大学院生・大学生にとって、今回の活動は今後の学生生活でどのような学習  
をしていったらよいかという指針をつかむ場となった。「ペーパークラフトの土器作りに真剣  
に取り組んでいる子どもたちをサポートできた。出来上がった時の子どもたちの笑顔を見る  
ことができ、嬉しかった。絵も自由に色を使って明るいイラストが描いていた。子どもと一  
緒に 1 日楽しく過ごす良い機会となった。今日で津島のことについて少し知ることができて  
よかった。子どもたちも自分の生まれた土地を知り、地域学習をすることの大切さを感じた  
と思う。私も社会科の授業を開発していくヒントにしていきたい。また参加させて下さい」  
(大学院生)「今日は 1 日楽しい時間を過ごした。私のグループの 5 人もとても良い子どもた  
ちで、子どもと接する貴重な体験の場となった。私の説明不足でペーパークラフトの作成が  
上手に進んでいくことができなかった。でも、他のボランティアさんが助けてくれたので、  
とても嬉しかった。名城大学では小学校教諭の免許状を取ることができないが、小学生と接  
すると小学校の先生になりたいと思う。弥生人を描くとき、私も子どもたちに描かされて、  
みんなと打ち解けた感じがした。機会があれば又参加したいと思う」(大学生) 大学院生・大  
学生の参加者はこの活動を通して、津島の歴史について興味関心をもつとともに、教職に対  
して新たな目標をもつことができたようである。

#### カ 津島ロータリークラブでの報告会

平成 23 年 9 月 2 日、津島ロータリークラブの例会で『青少年育成事業—ドキ☆土器☆弥生  
学習』と題して、事業を担当した浅井が報告を行った。ロータリークラブでは、新世代育成

事業として位置づけられた。プレゼンテーションを作成し、第 11 回の天王子ども塾の様子について報告を行った。平成 24 年度の課題として、①大学生の積極的な参加を促し、教材準備・学習活動準備の段階から参加を依頼する。②子どもたちが食いつくような古墳や埴輪・土器にかんするキットを準備すること が挙げられる。

### (3) 平成 24 年度『ワクワク古墳学習』の実践

#### ア 実践の概略

平成 24 年 8 月 18 日、津島市観光交流センターにおいて「第 12 回天王子ども塾 ワクワク古墳学習」を実施した。あま市・愛西市・津島市の小学校 4～6 年生 22 名が参加した。また教職を目指す大学院生・大学生 8 名が、講師としてまた学習支援のボランティアとして参加した。今年度は 1 名の大学院生に学習会全体をデザイン・企画する段階から参加してもらった。

開校式では、本事業の責任者として、津島ロータリークラブ副会長から激励のあいさつを頂いた。その後で、午前中に古墳時代の津島についての学習をした。愛知県埋蔵文化財調査センターより、海部地区周辺で出土した弥生時代の土器を借用してきた。(あま市甚目寺 阿弥陀寺遺跡・大淵遺跡) 本物の遺物にふれた後、海部の古墳時代について知識を広めた。その後で「二ツ寺神明社古墳」「美和歴史民俗資料館」「奥津社古墳」の見学を行った。昼からは、犬山市にある県内 2 番目に大きな古墳である青塚古墳について学習したその後で青塚古墳のキットと青塚古墳から出土した土器をペーパークラフトで製作した。これらの学習をもとにして、古墳時代のイメージをしっかりとつことができた。最後に子どもたちは、今回の「ワクワク古墳学習」について学習の振り返りを行い、アンケートに回答した。自分の感想と意見をまとめることができた。子どもたちは理解した内容を確かに行うことができた。

教職を目指す大学院生・大学生のボランティア 8 名が、子どもたちたちの活動をサポートした。愛知教育大学から 2 人の院生と名城大学一から 6 名の学生の参加があった。内 1 人の社会科の院生は「青塚古墳とその出土物」について講義を

#### 【資料 本日の学習予定】

開校式	9 : 15 ~ 9 : 30
海部の古墳時代	9 : 30 ~ 10 : 00
海部の古墳見学	10 : 15 ~ 12 : 30
昼食・休憩	12 : 45 ~ 13 : 30
青塚古墳について	13 : 30 ~ 14 : 00
古墳・土器づくり	14 : 00 ~ 15 : 30



【写真 当日の様子】

を行った。事前にメールで打合せを行った。当日も1時間前に集合し、最終打合せとサポートの方法についての確認を行った。あくまでも講師を手助けするアシスタントとして、ペーパークラフトの土器作成の手伝い、イラストを描く際の色や形の助言などをお願いした。昼食の時間も含めて、グループに分かれたので、子どもたちと接触する時間を多くもつことができた。閉校式では再び津島ロータリークラブの副会長よりお褒めの言葉をいただいた。又参加した大学院生・大学生も学習活動の感想をまとめた。

### イ 大学院生・大学生と共に創り上げる授業

ワクワク古墳学習では社会科教育を専攻する大学院生と授業づくりを行った。5月より4回の打合せをして、教材づくりと指導案の作成を行った。当日、

午後からの講義とペーパークラフトによる古墳・土器づくりの説明を大学院生に依頼した。また当日、1時間前に大学生を集め、子どもたちの学習支援の仕方についてお願いした。

今回の「ワクワク古墳学習」は、参加した子どもたちにとって学校以外の場所で子どもを伸ばす場になるとともに、参加した大学生にとっても教職を目指すためにどのような学習をしていくとよいかを理解する場となったようである。

### ウ 『ワクワク古墳学習』の学習内容

昨年度に引き続き、愛知県埋蔵文化財センターから海部地区から出土した遺物を借用してきた。子どもたちは本物の出土物をさわったり、においをかいだりすることができ、古墳時代の焼き物の固さを実感することができた。また弥生時代の土器も借用してあったので、土器の違いを比較することができた。午前中は「古墳とは何か」「海部地区の古墳とその出土物」

#### 【資料 当日のプレゼンの内容】

- スライド① 味美二子山古墳・三角縁神獣鏡の写真
- スライド② 考古学とは 人とかがわったものを扱う学問
  - ・遺構とは昔の人が掘った穴・溝・井戸・住居
  - ・遺物とは昔の人が作った道具・ゴミ
- スライド③ クイズ1 古墳時代は米作りが盛ん。○盛んとなる
  - クイズ2 土器は食事をおいしくしたか。○おいしくなった
- スライド④ 縄文・弥生・古墳時代の特徴
- スライド⑤ 弥生時代のお墓方形周溝墓と人骨（朝日遺跡）
- スライド⑥ クイズ3 愛知で一番大きな古墳は○断夫山古墳
  - クイズ4 尾張地方の代表的な埴輪は円筒埴輪○正しい
- スライド⑦ 古墳時代の時代区分 遺跡・土器編年
- スライド⑧ 断夫山古墳の写真
- スライド⑨ 古墳から出土したもの 人形・舟形埴輪
- スライド⑩ 古墳から出土したもの 三角縁神獣鏡
- スライド⑪ クイズ⑤古墳時代の焼き物は須恵器である ○
  - クイズ⑥ 尾張地方からは銅鏡は出土していない ×出土
- スライド⑫ 津島の弥生時代（寺野遺跡の遺物写真）
- スライド⑬ 阿弥陀寺遺跡・大淵遺跡の写真
- スライド⑭ 森南遺跡・二ツ寺神明社古墳の写真
- スライド⑮ 奥津社古墳・三角縁神獣鏡
- スライド⑯ 富士社古墳・築山古墳・二ツ寺神明社古墳の写真
- スライド⑰ 奥津社古墳の写真
- スライド⑱ 味美二子山古墳

についてスライドを見て、学習を深めた。この授業については、あま市教育委員会に勤める浅井が担当した。海部地区には、県内で最初に三角縁神獣鏡が出土した前方後方墳である奥津社古墳と県内で最も古い時代と考えられる二ツ寺神明社古墳が現存する。そこで、津島ロータリークラブの役員の方たちの車に分乗し、あま市にある二ツ寺神明社古墳・あま市美和歴史民俗資料館と愛西市にある奥津社古墳を見学した。歴史民俗資料館では、遺跡と出土物について、学芸員から説明を受けた。また子どもたちは、平野の真ん中に明らかに人工と思われる高まりがあるのを実感し、これが古墳の名残であることを理解することができた。地域に古墳があり、三角縁神獣鏡などが身近に出土していることに気づくこともできた。

午後からは大学院生が犬山市にある「青塚古墳とその出土物」に関する授業を行った。青塚古墳は愛知県で2番目に大きな前方後円墳である。古墳の構造・埴輪・石鏃などについて説明を行った。クイズを出しながら、子どもたちは楽しく学習を進めることができた。子どもたちは「メモをとりながら聞くといいよ」の一言で真剣にメモをとることもできた。その後で、古墳と埴輪のペーパークラフトのキットを作成した。古墳のキットは全員が完成させることができたが、壺型埴輪のキットは難しく、参加者の中で1人だけしか完成させられなかった。事前準備の不足を感じた。キットはNPO法人「にわ里ネット」の製作によるもので、ペーパークラフトの製作を通して、体験的に古墳・埴輪づくりを楽しむことができた。

## エ 子どもたちの感想

『ワクワク古墳学習』の事後のアンケート調査で、子どもたちは古墳時代のことが「よくわかった11名」「わかった9名」、古墳時代の学習が「好きになった14名」「少し好きになった7名」と好意的な回答をした。又感想として、「土器の種類がたくさんあり、自分でも土器を見つけてみたい」「卑弥呼の鏡があると知り、見に行きたくなった」「古墳作りが楽しかった。テレビを使った説明やクイズが楽しかった」「色々な古墳を見学することができたので楽しかった。学生ボランティアの人たちと話したのが楽しかった。飛び出す古墳づくりも楽しかった。達成感があった。みんなでご飯を食べたのも楽しかった」「大学生の人とたくさんしゃべって楽しかった。私が知らない事とか始めて見る物がたくさんあった。お昼はみんなとしゃべりながらマックを食べて楽しかった。本物の古墳や出土品を見ることができて嬉しかった」「住んでいる近くに古墳があり、びっくりした。話がわかりやすくて勉強になった」など書いていた。今回の学習で、子どもたちは知的好奇心を高め、学習意欲を増すことができたことがわかる。

## オ 参加した大学院生・大学生の感想

今回、学習の企画・運営の段階から、大学院生・大学生と共に授業づくりを進めるようにした。学生たちにとって、この企画そのものが教師になるためのエクササイズになるように心掛けた。授業を行った大学院生は、「久しぶりに古墳時代について勉強した。小学生に古墳について教えることがあったが、事前に勉強しておけば良かったと思った。小学6年生の女

の子4人を担当したが、だんだん慣れてきてすごく喋ってくれるようになった。小学生と触れ合う機会となり、とても良い経験となった。自分の知識に足りない部分があり、しっかりと教えられなかったのが残念だった。今回、ボランティアに参加してとても良かった」又子どもをサポートしてくれた学生は「1日中学ぶことが多く、小学生を見ているととても元気になった。私が今まで大学の教職の授業で学んだことが、実際に活用することができて良かった。浅井先生や森さんのように上手に説明は出来ないと感じた。残りの2年間で頑張ろうと思った。土器などを皆に渡すとき『必ず両手で』や話を聞くときは『しっかりと聞くこと』など最初にルールを言うことがとても大切で大変なことを知った」と感想をまとめた。

#### (4) 成果と課題

ア ロータリークラブや天王文化塾など社会教育団体の力を活用して、学校以外の場に子どもたちの学習の機会を設けることができた。子どもたちにとって、歴史学習の発展・継続・再発見の学習を促すことができたと考える。

イ 本物の遺物と出会い、遺跡を見学し、ペーパークラフトを作成するといった作業学習を行うことで、参加した子どもたちは実感を伴った歴史学習を体験することができた。

ウ またボランティアとして参加した大学院生・大学生にとっては、今後学園で教職を目指してどのような学習を展開していけば良いかを理解する機会となった。各参加者が教職を目指す意欲を高める機会となった。

エ 社会教育団体とコラボレーションした事業は継続することに意義がある。今後新しい歴史学習のプログラムを開発し、子どもたちにとって、ボランティアとして参加してくれる大学生にとって「楽しく、やりがいのある歴史プログラム」を開発していきたい。

(あま市教育委員会 浅井厚視)

#### 平山先生のワンポイントアドバイス

この5年間程浅井先生は、学校の枠を飛び出し、社会教育団体とコラボレーションを図った歴史学習(イベント)のあり方を進めています。今回の実践もそのような状況から生まれました。さらにこれらのイベントでは、名城大学をはじめとした教員志望の大学生を受け入れ、教師づくりの場としている点に特徴があります。浅井先生の持論である「(地域)素材の教材化の進め方」や「遺物(本物)を提示して、授業に夢中となる手だて」「ペーパークラフトの製作(土器づくり)による作業学習」など大学生が身に付けてほしいテクニックが一杯つまっている実践だと思います。今後、教員志望の大学生にとって、子どもと接する機会の提供とともに、どのような力量が必要かを考え、質と量との吟味を行った実践を積み重ねていただきたいと思います。そのために私も大学の立場から、力をお貸しするつもりでいます。